

新たな5G技術的条件の早期整備に向けて

2022年2月7日
ソフトバンク株式会社

デジタル田園都市国家構想に当社としても賛同

地方にも早期に5G/高度通信インフラを届けて地方からも産業を活性化すべき

デジタル田園都市国家構想関連コメント

「**地方からデジタルの実装を進め、新たな変革の波を起こし、地方と都市の差を縮めていきます。そのために、5Gや半導体、DCなど、デジタルインフラの整備を進めます。**」

岸田首相コメント（所信表明演説より）

「デジタル基盤の整備については、**5Gの人口カバー率を、現在の3割程度から2023年度に9割に引き上げます。**」

岸田首相コメント（第2回デジタル田園都市国家構想実現会議より）



5G
SoftBank

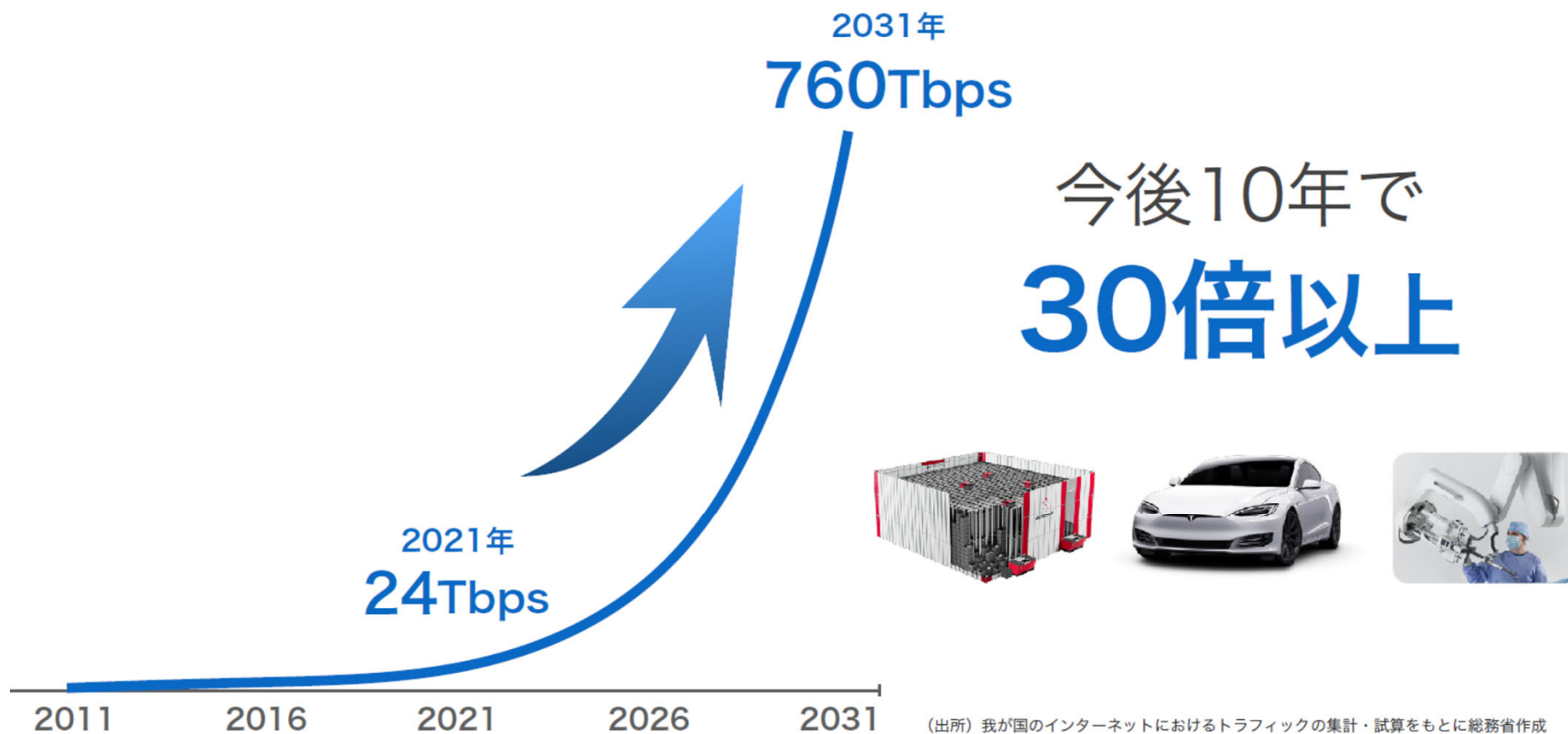
2022年春

人口カバー率 **90%**へ



5G・B5G時代の携帯電話トラフィック

5G・B5G時代はトラフィックが年々増加
大容量トラフィックを収容するため**100MHz単位の帯域幅での展開も早期に必要**



(出所) 我が国のインターネットにおけるトラフィックの集計・試算をもとに総務省作成
※コロナ後の伸び率で推計

今後の割当対象帯域にはエリア拡大に適したSub6と、
ホットスポット対応に適したミリ波が存在



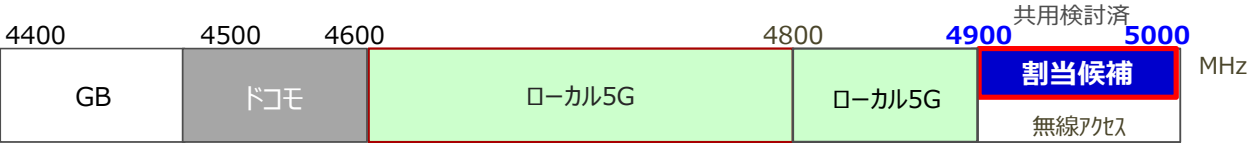

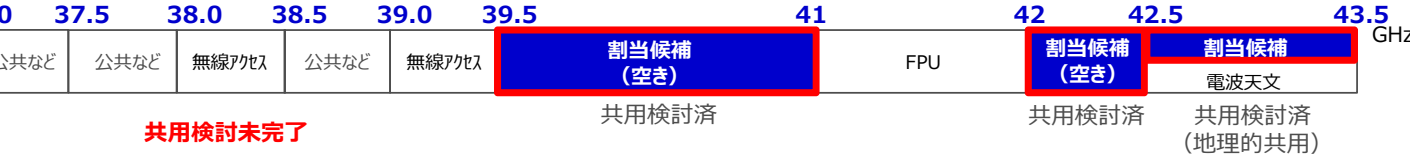
これまで全国事業者は
UHF（700MHz帯）からC-band（4.5GHz帯）までの
Sub6帯域を活用して面カバーエリアを展開



**4.9GHz帯は「Sub6（面カバー対策）」かつ「100MHz幅利用可能（トラヒック対策）」
デジタル田園都市国家構想への貢献度が大きく、早期に活用すべき**

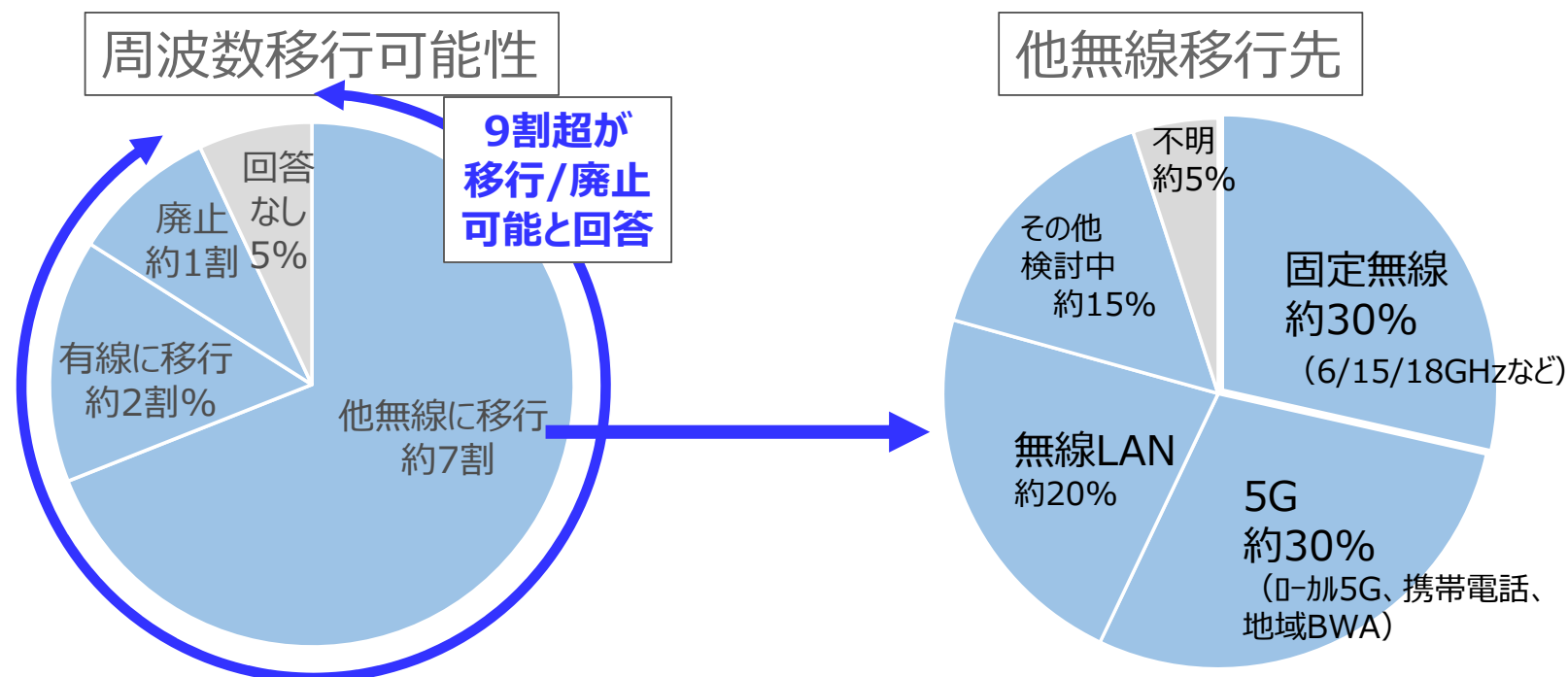
本作業班での検討周波数（作業班資料25-6-1）

候補となっている以下周波数帯の中で、
4.9GHz帯については本作業班での検討は概ね終了していると理解

周波数帯	作業班検討事項
<p>4.9GHz</p> 	<p>特になし</p>
<p>26GHz</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・25.25-26.6GHzの考え方（共用検討含む） ・ダイナミック共用
<p>40GHz</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユースケースなどの整理 ・37~39.5GHzの考え方（共用検討含む）

4.9GHz帯既存免許人の再編調査について

再編を想定した場合、9割超が移行もしくは廃止が可能と回答
 →具体的な移行方法や終了促進の活用など再編方法は、
 本作業班とは別の場で引き続き検討



作業班資料26-5-2「5GHz帯無線アクセスシステムの周波数移行に向けた事前調査概要」を基に作成

4.9GHz帯の早期答申に向けて

<当該帯域の検討状況>

- ◆ 共用検討結果：2020年12月報告済み
- ◆ 既存免許人調査：2022年1月報告済み
- ◆ 技術的条件：記載上、当該帯域まで周波数を拡張するのみ
→ **技術検討作業班での議論そのものは既に完了との認識**

※なお、終了促進措置活用に向けた各施策の推進（免許人への働きかけ）や再編費用算定など割当てに必要な作業は並行して進めることが必要



4.9GHz帯技術的条件の答申を早期に進めることを希望

本作業班での検討項目について

＜技術検討作業班での検討項目＞

◆新技術の導入

- ・中継局（陸上移動中継局、小電力レピータ）
- ・フェムトセル基地局
- ・高出力端末
- ・空中線電力／利得の規定の見直し（EIRP化等）

◆新周波数の導入

- ・5G新周波数帯の確保

⇒準備が整ったものから順次答申・導入へ

デジタル田園都市国家構想に資する
新周波数（4.9GHz帯）導入は早期に進めることが不可欠